



白聖はくあ 第6号 令和7年6月17日発行



《大学について学ぼう①》

進路選択では、自分に合った学校を見つけないものですが、大学についてきちんと調べずに志望校を決めてしまい、入学後に後悔……なんて声もあります。そんなときに役に立つのが、「アドミッション・ポリシー」です。アドミッション・ポリシーについて知ることは学校選びや入試の傾向をつかむ手がかりになりますので、基本的な概要や役割について解説していきます。

【アドミッション・ポリシーとは】

アドミッション・ポリシーとは、大学の「入学者受け入れ方針」のことで、自分と大学との相性を考えるうえで、参考にすべき重要な要素になります。

大学改革の一環として、2017年度から全ての大学に対して「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）」と「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」と「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」の策定と公開が義務付けられました。この3つの方針は、それぞれの大学が「どのような人を入学させ」「どのように育て」「どのような力を身に付けさせて卒業させるか」を示したものになります。大学はまず教育理念や建学の精神をもとにディプロマ・ポリシーを定め、その達成に必要な教育方針としてカリキュラム・ポリシーを定めます。この2つのポリシーをふまえ、どのような入学者を受け入れるか、アドミッション・ポリシーを定めます。こうして3つの方針が決まることによって、入り口から出口まで一貫した質の高い教育が行われると期待されています。

3つの方針は、その大学の教育の全体像が記されているため、受験生や保護者が大学を知るうえで非常に役立ちます。志望校が決まっている場合はもちろん、迷っている場合も、一度は目を通しておくとよいでしょう。

なかでもアドミッション・ポリシーは特に重要です。アドミッション・ポリシーは、どんな人に入学してほしいかを示した、大学からのメッセージです。求める人物像、求める力のほか、どんな入試を行うのかも書かれているので、大学と自分の相性を考えるよい判断材料になります。特に総合型選抜・学校推薦型選抜を受験する場合、志望理由が関係するので必ず熟読しましょう。

多くの大学は、大学、学部、学科のアドミッション・ポリシーを定めており、求める人物像や選抜基準など順に細かく、具体的な内容が記される傾向にあります。まずは大学のアドミッション・ポリシーを読み、その大学の大きな校風を理解しましょう。次に学部のアドミッション・ポリシーを読みます。例えば経済学部と文学部では、求める人物像が異なります。だからこそ、学部のアドミッション・ポリシーは端的かつ具体的に、求める人物像がまとめられています。ホームページや大学案内で探しやすいのもポイントです。ぜひ確認しましょう。

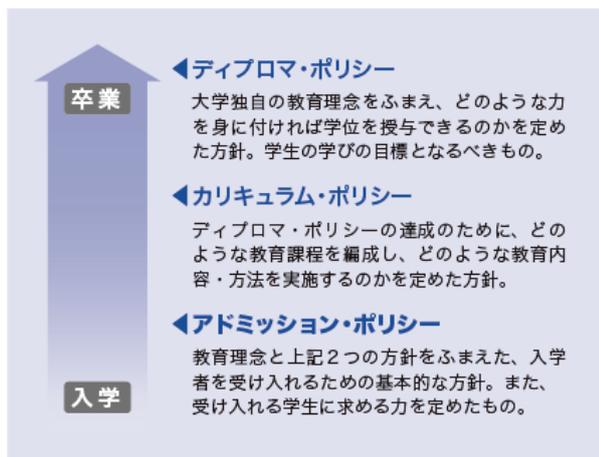


【アドミッション・ポリシーはこう読む】

1. どのような力を発展・向上させるのか

どのような学生を育成するのかを、教育理念・教育プログラムに分けて説明しています。特に教育プログラムでは、学生をどのように育てるのか、具体的な内容に触れています。この部分を読んだうえで、より詳しい内容を調べたり、他学部に書かれていることと見比べてみると、その学部の特徴がよくわかるはずです。

(裏面へ続く)



2. 入学者に求める資質・能力は何か

求める人物像について記されています。大学の教育理念に基づいて、大学・学部・学科ごとに「どんな学生を求めているのか」を詳しく示しています。例として、東京大学のアドミッション・ポリシーにある「期待する学生像」を見て見ましょう。期待する学生像を見ると、以下の文が見つかります。

・・・入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

これを見ると、東京大学は以下の3つを満たそうと努力する学生を求めていることがわかります。

- ・「自らの興味・関心を生かして幅広く学ぶ」
- ・「諸問題を関連づける広い視野」
- ・「自らの問題意識を掘り下げて追究する深い洞察力」

このようにわかりやすいキーワードが他大学にもいくつかあるようです。こうしたキーワードが、自分に当てはまるか考えてみましょう。

3. 重きを置く能力とその評価のしかた

各入試方式によって測る力と、その評価方法が記されています。出題の背景にある大学の考えを知ることにより、一歩踏み込んだ対策ができるでしょう。大学によっては入試方式ごと（一般選抜・学校推薦型選抜・総合型選抜等）のアドミッション・ポリシーを用意していることもありますので、併せて確認してください。

【Benesse マナビジョンより引用・抜粋】

アドミッション・ポリシーには大学が求める学生像や教育理念が書かれています。志望校を決めるときにこの部分を読んでおくと、「自分の学びたいことと大学の教育方針が違った」という mismatch が起きにくくなります。アドミッション・ポリシーは多くの大学・学部・学科のホームページでも公開されていますが、検索して出てこない場合もあります。その場合は学校案内パンフレットや入試要項などで探してみましょう。

《総合型選抜・学校推薦型選抜集会》

第1回：5月12日（月） 第2回：6月13日（金）

令和8年度入試において、総合型選抜・学校推薦型選抜の受験を考えている3年生に対し、2回に分けて集会を実施しました。本校卒業生の総合型・学校推薦型の出願状況や合格実績を踏まえながら、試験の方式や種類、準備する書類について説明しました。具体的に何をいつまでにどの水準まで取り組むべきかを周知したことで、生徒の受験に臨む意識に大きな変化が感じられる集会となりました。以下は集会に参加した生徒の感想です。



- ◆もう一度書類の提出期限や受験方法、日程などを確認して、しっかり内容を理解した上で計画的に対策をしていかなければいけないと思った。早速志望理由書に取り掛かり、残された時間を有効に使っていききたい。
- ◆大学でやりたいこと、学びたいことは明確だが、その分野についての専門書を読んだことがなかったため、意欲関心についてのエビデンスを作りたい。
- ◆自分の志望と大学の研究がちゃんとマッチしていないと、一生後悔すると感じた。高校在学時に行った活動や活動を通して何を学んだか、今後何をしていきたいかの自分の考えを言語化できるようにしていきたい。
- ◆入試に関わる書類や提出物は全て自分の未来を左右するので、期限に気をつけて内容の不備に常に気を配って慎重に進めていきたい。また、推薦や総合型選抜には多くの先生が関わり、指導して下さるので感謝の気持ちと相応の覚悟を持って総合型選抜に挑みたい。
- ◆話を聞いて自分の考えの甘さに気づき、正直自分は推薦入試に向かないのではと不安になった。安易に決めるのではなく、一般での受験も視野に入れて残された時間で推薦を受けるための相応の覚悟を持ちたい。
- ◆合格という目標を達成するためには、毎日の努力を積み重ねるしかないと思い、前を向いて進んでいきたい。周囲と比べるのではなく、昨日の自分より少しでも成長することを目指して、学びに向き合う必要がある。途中で投げ出さない強い心を持ち、失敗や挫折もすべて自分の糧にして最後までやり抜きたい。